

海を望む（藤井竹外）

鵬際 晴れ 開く 九万の 天

無人の 島は 定めて 何れの 辺なる

風を 追う 狂浪 奔馬の 如く

忽ち 巉礁に 触れ 砕けて 煙と 作る

鵬際晴開九萬天 無人之島定何邊
追風狂浪如奔馬 忽觸巉礁碎作煙

解説 荒海に臨んで作られた詩である。茫々たる水平線のあたりは果てしなく、荒れ狂う波は岩に当たって砕ける。海の大きさ、力強さを描いている。

語釈 ※鵬際：遠く際限の無いかなた。水平線のこと。※九万天：極めて遠いことをいう。※無人之島：人のいない島。※定いつたいくだろうか」の意。※狂浪：荒れ狂う波。※奔馬：勢いよく走る馬。※唾礁：水面すれすれにある、切りたつた岩。水中にある。※煙：「烟」の字にするのもある。

通釈 はるか水平線のあたり、水と空とがどこまでも連なる。いつたい、無人島はどこにあるのだろうか。風を追うかに見える荒れ狂う波は、奔馬のような勢いで海面を渡って来て、不意に暗礁にぶつかって砕け散り、一瞬、煙のようになる。